

地域の皆様と利用者様をつなぐ架け橋

南山城学園のカフェや商品をご紹介します。



ぷちぽんと kitchen+farm

自家農園で作った野菜を使用。

11:00～15:00
ランチタイム 11:00～14:00
⑥ 日曜・祝日、月曜、第3土曜
京都府城陽市富野東田部69番地1
障害者支援施設「凜」内
TEL 0774-56-7881



カフェ ぷらんたん

テラス席もある一軒家。

11:00～16:00
ランチタイム 11:00～14:00
⑥ 第1月曜、日曜・祝日
京都市伏見区日野西川類4番地2
TEL 075-575-2413



カフェ さびゆいえ

低農薬野菜のお料理を提供。

10:00～15:00
ランチタイム 11:00～14:00
⑥ 日曜・祝日
京都府宇治市宇治蔭山9番地11
地域福祉支援センター宇治小倉内
TEL 0774-23-0338



食パン

デイセンター「ふらっぴ」

就労継続支援B型の作業として食パンやラスクの製造を行っています。和三盆を使用し、まろやかな甘み特徴です。



クッキー

障害者支援施設「翼」

プロの指導を受けリニューアル。お土産などに少量からでも注文を受け付けています。



低農薬野菜

「ぷちぽんとファーム」(京田辺市)

障害者支援施設「魁」(凜)
カフェ「ぷちぽんとkitchen+farm」で提供するほか、京都市内のノウフクマルシェやクロスビア久御山にて販売。



堆肥

障害者支援施設「円」

枯れ草を利用して作った堆肥は、近隣農家さんに人気です！収益の一部を「みどりのまちづくり基金」に寄付。



さをり織り・縫製・木工など商品

障害者支援施設「和」

身体障害者デイサービスセンター「すいんぐ」
知的障害者デイサービスセンター「あっぷ」
ポーチ、ティッシュカバー、ブランケットカバー、座布団など。京都府聴覚言語障害センター内「あんだんて」(JR城陽駅徒歩5分)やバザーなどにて販売。



ANNUAL REPORT

事業報告書 MINAMI
YAMASHIRO
2021 GAKUEN



地域の 皆様とともに

minami yamashiro gakuen

2021.4-2022.3



子ども食堂にて 学習支援

前年度に引き続き、コロナ禍でも地域
の子どもたちが安心して過ごせる居場
所づくりとして、月2回程度小学生を対
象に学習支援を実施しています。



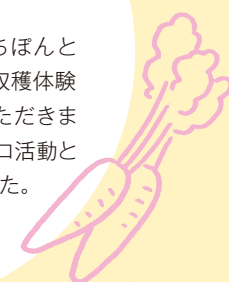
子どもたちとの 交流・福祉教育

京都市立春日野小学校(オンライン)と
城陽市立富野小学校にて福祉理解教
育を実施しました。また、城陽市立今池
保育園児を招き、ハロウィン交流会を
行いました。



ファームイベントで 交流

感染対策を徹底した上で、ぶちぼんと
ファームにて農業の植え付けや収穫体験
を開催し、多くの方にお越しいただきま
した。また、気軽に参加できるエコ活動と
してコンポスト講座を開催しました。



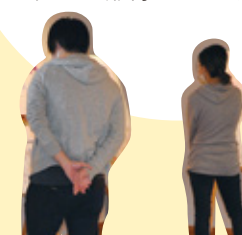
大学で福祉の 魅力を発信

若手職員で構成されるGAKUEN魅力発
信チームのメンバーが、福祉現場で働く
やりがいや魅力について、大学の授業で
講演しました。



展示会を開催

知的障害のある利用者様が思
い思いに作り上げた陶器や絵画
などの作品を宇治市内のギャラ
リーにて展示をしました。



About us

基本理念

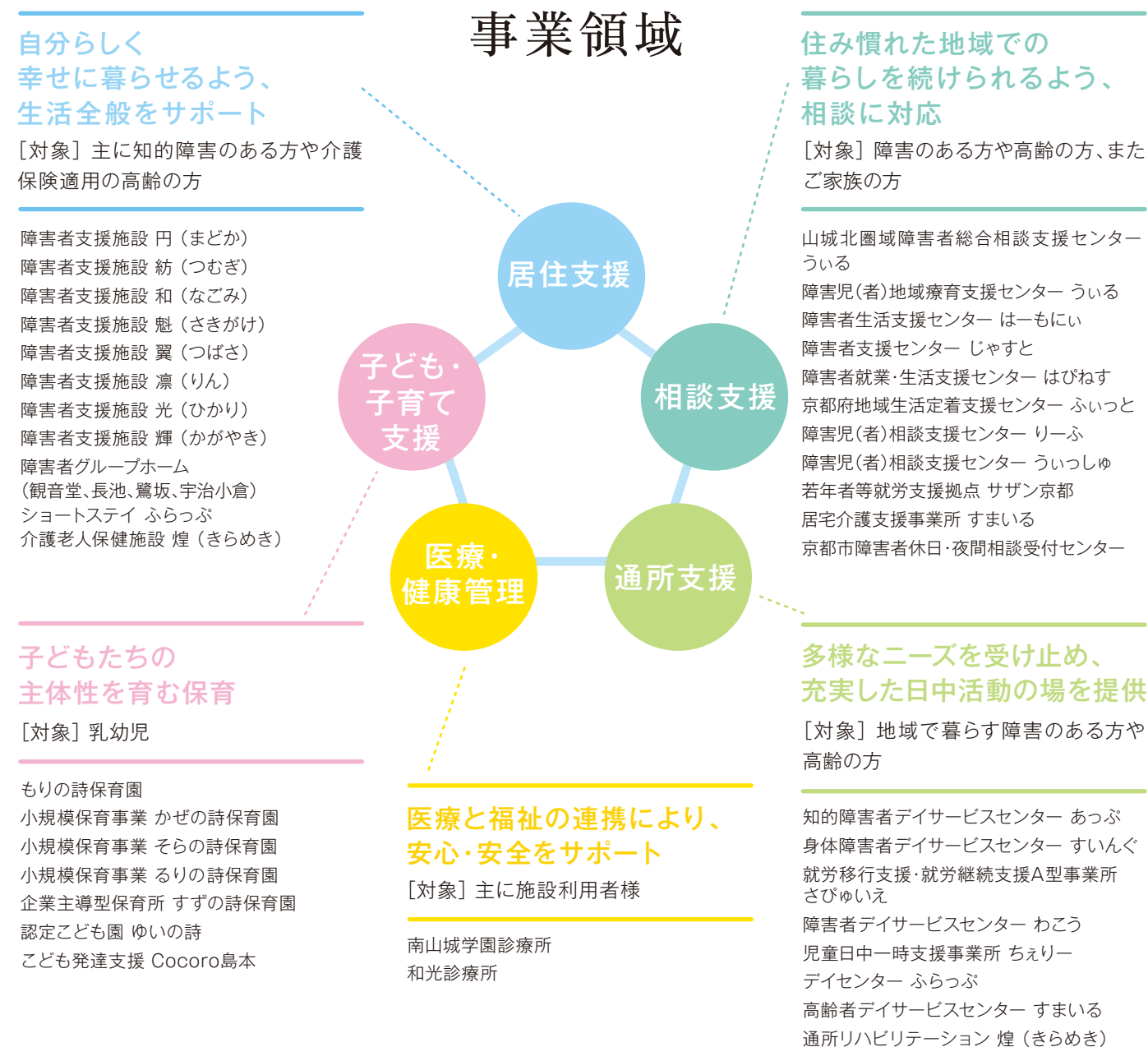
- 01 利用者様の尊厳を守り、幸福を追求する。**
私たちは利用者様の人としての尊厳を重んじ、一人ひとりのかけがえのない人生に寄り添い、ともに幸福を追求します。
- 02 地域のニーズにパイオニア精神で取り組み、「共生・共助」の地域づくりに貢献する。**
私たちは、社会福祉法人として培ってきた専門性やノウハウを最大限に活かし、地域社会における福祉ニーズに率先して取り組み、課題解決に努めます。
また、すべての方が住み慣れた地域で互いに寄り添いながら暮らせる福祉社会の実現に貢献します。
- 03 いつでも誰もが安心して利用できる福祉サービスを創造する。**
一人ひとりの特性に応じた適切なサービスを提供するため、さまざまな事業を展開し、安心して利用できる新たな福祉サービスを創造します。

7つの誓い ～職員がめざすべき行動基準～

- 1 質の向上に向けた意欲と実践**
私は、利用者様の幸福のため、利用者ニーズに即応して、結果を出せるよう自らが行動を起こします。
- 2 ルールと正確性の重視**
私は、利用者様、職員など関わるすべての人々の安心・安全のため、ルールを守り正確性を重視します。
- 3 利用者理解と個別サービスの追求**
私は、利用者様の尊厳を守り、利用者様の理解に努め、質の高い個別サービスを追求します。
- 4 セルフイメージの向上と影響力**
私は、社会福祉の一端を担う者としての自覚と自信を持ち、人々に前向きな影響をもたらします。
- 5 職員の支援と育成**
私は、職員として、ともに学び、成長することを、互いの喜び・楽しみとします。
- 6 チームワークとリーダーシップ**
私は、チームの和を大切にしつつ、立場や状況にふさわしいリーダーシップを発揮します。
- 7 専門性の向上と活用**
私は、職務に必要な専門的、組織的能力を身につけ、発展させ、活用します。

法人概要

事業内容	・第一種・第二種社会福祉事業（障害・高齢・保育・生活困窮者） ・公益事業	経常収入	41億3,700万円〔令和3(2021)年度〕
設立	昭和40(1965)年 2月	事業所	京都府城陽市／宇治市 ／京都市伏見区・中京区・下京区 ／大阪府三島郡島本町
代表者	理事長 磯 彰格		障害31ヶ所／高齢4ヶ所／保育園6ヶ所 〔令和4(2022)年 新規開設含む〕
職員数	717名〔令和4(2022)年3月31日現在〕		



中期経営計画2025 2020年4月～2025年3月

「中期経営計画2025」の実践を通じて、SDGs(Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)の推進に貢献していきます。

SDGsにおける目標



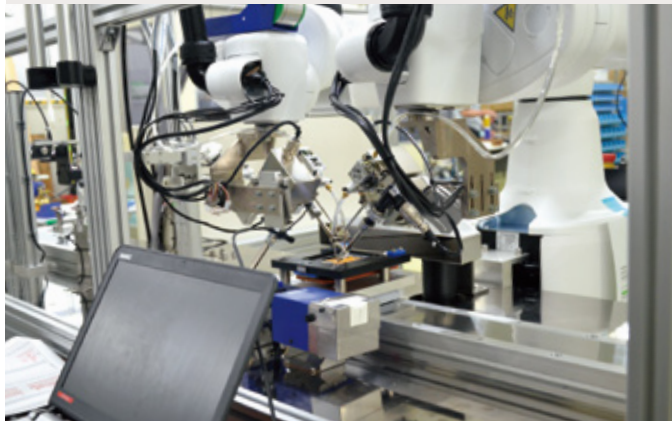
長期ビジョン

創造性の発揮	1	共生のまちづくりへの参画 教育・農業・地場産業・住民組織など、幅広い関係者との繋がりをさらに強化します。また、生活困窮者や就職氷河期世代などの支援を包括した、地域共生社会の実現を目指します。	1 貧困をなくそう 17 パートナリーシップ
	2	生産性の向上 ロボット・ICT技術を活用し、効果的・効率的な業務運営を行います。また、利用者様の安全確保や健康管理面での先進技術開発に、積極的に参画します。	9 インノベーション 17 パートナリーシップ
	3	研究と実践の連係 サービスの質の向上のため、産官学と連携し共同研究・発信を行い、新たな担い手の育成を図ります。また、他法人と連携し、高齢知的障害者支援に関する共同研究に参画します。	3 健康・福祉 4 教育
経営資源の有効活用	4	魅力ある職場づくり 育児や介護などライフステージに応じた雇用形態、エキスパートからスーパーバイザーへの昇格制度など、柔軟かつ職員の能力と意欲を高める人事制度を構築します。	5 ジェンダー 8 成長・雇用
	5	人材の確保と育成 学生や一般求職者から選ばれる、魅力ある法人・事業所を目指します。そのため、育成制度や、多様な働き方に応じた人事制度を確立します。	5 ジェンダー 8 成長・雇用
	6	就職氷河期世代など、幅広い就労支援ニーズへの対応 生活困窮者・障害者の枠組みを超え、カフェ、食品加工、農作業など幅広い「就労支援サービス」を提供するとともに、福祉的就労・中間就労から一般就労への移行を支援します。	1 貧困 8 成長・雇用
暮らしの質の向上	7	障害者の多様な生活ニーズ、介護ニーズに対応する「暮らしの場」の整備 障害者の高齢化に対応するため、日中プログラムの抜本的な見直しやハード面の整備を図ります。また、グループホームを含めた地域での暮らしを支える環境を整えます。	3 健康・福祉 10 平等 16 平和・公正
	8	リハビリ機能を活かした高齢者・障害者の自立支援の強化 介護老人保健施設・通所リハビリの機能を強化し、地域の高齢者ニーズに積極的に応えとともに、障害者の自立支援にもリハビリ機能を積極的に活用します。	3 健康・福祉 16 平和・公正
	9	異年齢保育を柱とする子育て支援の充実強化 異年齢保育を中心に据えた保育の質の充実を図ります。また、法人が培ってきたノウハウを活用し、子育て支援事業を拡充するとともに、既存の相談事業との連携を強化します。	4 教育 8 成長・雇用

3 研究と実践の連係

～KOUFUKU(工・福)連携プロジェクト～

近年、「福祉×○○」というフレーズをよく目にしますが、今回取り組んだのは、工業・テクノロジーとの連携です。休眠預金を社会課題の解決や民間公益活動の促進のために活用する制度からの助成金を活用し、産官学福がそれぞれの強みを活かし、新たな障害者就労の形を創造しました。先端技術である産業ロボットを配置し、高齢者の見守りシステムとなる基盤センサー製品の開発・製造を進めています。社会的に価値ある製品を製造し、障害のある人の工賃を向上させるプロジェクトが動き出しています。



6 就職氷河期世代など、幅広い就労支援ニーズへの対応

～若者等就職・定着総合応援事業～

地域福祉支援センター宇治小倉では、就労移行事業所や障害者就業・生活支援センター、地域若者サポートステーションを設置し、就労困難な状況に置かれた人たちへ総合的な就労支援を実施しています。令和2年度より京都府から「若者等就職・定着総合応援事業」を受託し、就職氷河期世代の人を中心に計画的なプログラムを実施し、令和3年度は、年3回のプログラムを実施し、コロナ禍でありながら3名の企業就職を果たすことができました。今後も社会の状況にあわせ、そのときに必要な就労支援を進めてまいります。



いそ あきただ

磯 彰 格 理事長インタビュー

新たな時代の福祉ニーズに応えるために



令和3(2021)年度は、前年度に引き続き、新型コロナウイルス対応のため、厳しい感染リスク管理が必要となった一年でした。法人では、利用者様と職員が迅速にワクチン接種を行うことが最大の防御策と考え、施設内の集団接種や職域接種などのあらゆる機会を活用し、スピード感をもってワクチン接種に取り組みました。令和4(2022)年1月には障害者支援施設 輝でクラスターが発生しましたが、ワクチン接種の効果もあり、重症化を招くことなく終息することができました。

また、「認定こども園 ゆいの詩」開設に向けて万全の準備を進め、必要数を超える人材を確保し、無事4月に開園することができました。

次年度も、感染症対策と健全な経営の両立を目指し、業務の効率化と生産性の向上を一層進めます。

加えて、「こどもから高齢者まで継続的な支援モデル」を構築するとともに、更なる経営基盤強化のため、サービス利用の接続・選択およびスムーズな移行など、ニーズを捉えた事業展開を図ります。

感染症予防研修

利用者様を守り、職員を守り、地域福祉を守る

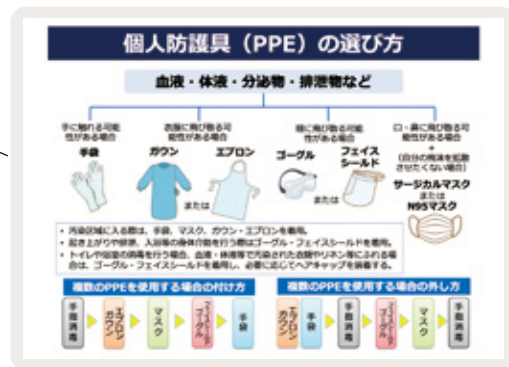
前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策に尽力しました。施設内での集団接種や職域接種等あらゆる機会を活用し、利用者様及び職員約1,400名(全体の約96%)と近隣住民や企業の皆様約330名(延べ約5,000名)が、令和4(2022)年度末までに3回目のワクチンを接種しました。

障害者支援施設にてクラスターが発生しましたが、迅速なワクチン接種と感染対策部会で作成したスタンダードプリコーション、BCP(業務継続計画)及びマニュアルに沿った対応などにより感染拡大を最低限に抑え、重症化を招くことなく終息することができました。

引き続き、感染状況を注視しつつ、万全の対応に全力を尽くします。

日常の対応(予防・早期発見体制の確立)

- ・利用者様・職員の健康管理を徹底
- ・毎月1回の障害者入所施設保護者を中止
- ・後援会含む各種行事の中止
- ・職員・利用者様の不要不急の外出を自粛要請
- ・ご家族の面会制限
- ・各種会議・研修でのオンライン活用
- ・マスク・消毒用アルコールなど備品の一括調達・管理(法人内の需給調整)
- ・法人独自の慰労金支給
- ・スタンダード・プリコーション(標準予防策)の策定
- ・感染予防研修の実施
- ・多床室(紡)の個室化改修(工事中)



感染予防対策の実施

令和3(2021)年10月1日、宇治徳洲会病院の感染防止対策部門、看護師長の江口比呂美氏(感染制御実践看護師)をお招きし、感染予防対策研修を実施しました。医療現場の最前線に従事する立場から、福祉従事者に必須の感染予防策の基本事項やガウンテクニックなど、即座に実践できる内容を教えていただきました。



サービス向上・リスクマネジメント

サービス向上プロジェクト

各事業所が提供するサービスの質や業務内容等を他の施設職員が確認する機関として、虐待防止委員会の中にサービス向上プロジェクトを設け、客観的かつ専門的な立場から評価します。管理職6名、事務局1名、オブザーバーの事務局長、事業局長で構成され、2ヶ月に1回プロジェクト会議を設けています。

実地調査(施設ラウンドチェック)

権利擁護の観点に基づく実地調査を平成26年度から実施しています。令和3年度からは通年で複数施設を巡回できるように体制変更しました。令和3(2021)年8月に障害者支援施設 魁、和、翼、凜にて実施。他事業所管理職2名を調査員とし、ラウンドチェックリストに沿って、権利擁護の観点に基づきランダムに職員への聞き取り調査を行いました。実施後、当該所属長にチェック結果・評価を報告しフィードバックしました。



本部リスクマネジメント委員会の取り組み

各事業所が提供するサービスの質や業務内容などを他の施設職員が確認する機関として、虐待防止委員会の中にサービス向上プロジェクトを設け、客観的かつ専門的な立場から評価します。管理職6名、事務局1名、オブザーバーの事務局長、事業局長で構成され、2ヶ月に1回プロジェクト会議を設けています。

1.事故対策部会

- (1) 記録ソフトでの事故報告書作成
 - ・ Excelで作成していた事故報告書を、福祉見聞録(業務支援ソフト)での作成に変更。ケース記録から直接作成できるので業務省力とデータ化が可能になりました。
 - ・ 次年度は、ヒヤリハットや苦情解決についても業務支援ソフトの活用を図ります。

(2) リスクマネジメント研修

- ・ AIG損害保険株式会社に講師を依頼し、過去3年間の車両事故データを部会で検証し、法人の事故内容を踏まえた安全運転講習を実施しました。より多くの職員が受講できるよう、オンデマンド配信とライブ配信を活用し、開催しました。

2.感染対策部会

- ・ 感染対策部会では、新型コロナウイルス感染症に備えた対応として、法人内の衛生資材の在庫調整及び発注、標準予防策(スタンダード・プリコーション)の更新やBCP(事業継続計画)の周知などに取り組みました。



3.大規模災害部会

- ・ 大規模災害部会では、令和3(2021)年度は、ブラッシュアップを図るため、BCPマニュアル作成プロジェクトを立ち上げましたが、コロナ禍により全体訓練が実施できない状況が続いていました。そのため、年間計画を修正し、水害も含めたマニュアル見直しをもって今年度は完了としています。
- ・ 次年度は、コロナ禍状況も踏まえつつ、見直したマニュアルの実証訓練を実施予定としています。大規模災害に対しては、日頃からの備えが重要である為、利用者様の安全を第一に考え、今後もPDCAによるマニュアル等の改善を図っていきます。

認定こども園

認定こども園 ゆいの詩、こども発達支援Cocoro島本を開設

令和2年8月に旧・島本町立第四保育所跡地への幼保連携型認定こども園整備事業として選定されてから1年7ヶ月、認定こども園ゆいの詩ならびにこども発達支援Cocoro島本の開設準備を進めてきました。そして、令和3年4月と6月にそれぞれの事業所がオープンしました。

完成した園舎は、木をふんだんに使用した環境に優しい造りとなっており、玄関からみる風景から、子どもたちの大きな声がこだましているように感じます。令和4年4月より84名の園児が通園します。

認定こども園には、独立した空間に病児保育室を設け、親子が安心して子育てが出来る環境を整えています。

また、6月にオープンしたこども発達支援Cocoro島本は、関西医科大学付属病院と連携し、居心地がよく（Comfortable）地域に根差した（Community）空間（Room）を提供し、小グループによる療育を通して健やかな成長を支援します。



「認定こども園 ゆいの詩」^{うた}（概要）

- ・幼保連携型認定こども園 定員150名（初年度のみ90名）
- ・所在地：大阪府三島郡島本町桜井二丁目433番地2（JR島本駅 徒歩5分）
- ・病児保育室を併設
- ・こども発達支援Cocoro島本を併設

名称の「ゆい（結）」は「つながり」。異年齢保育とプロジェクト保育で子どもの主体性を育む教育・保育を実践し、園と地域が互いにつながりあい、育ちあうことを大切にします。

すべては輪となって未来に向かってつながっていくイメージです。

「認定こども園 ゆいの詩」が地域の子育て支援ニーズにしっかりと応えできるよう、法人として全力を尽くしてまいります。



多岐に渡る資格養成と実習教育で地域貢献

大学と連携したリカレント教育

令和3年度、京都光華女子大学が実施する「多様な知識で貢献する次世代ワーカー育成プログラム」に産学官連携として参画し、大学教育と社会福祉法人での実践を融合し、新しい視点からケアワーカー（社会福祉の担い手）の育成を図りました。法人は「介護職員初任者研修」「ガイドヘルパー養成講座」を主催し、講座「介護におけるコミュニケーション技術」「AIが変える在宅医療」を担当したほか、「インターンシップの受け入れ」「職務経歴書の書き方講座」などの就職支援も行いました。



産学官連携により修了生13名の輩出に貢献

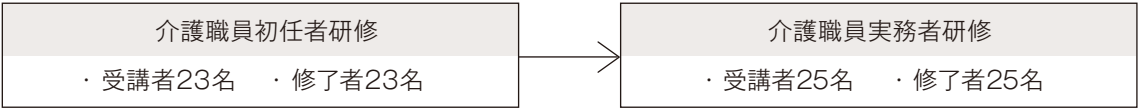
法人主催の資格教育

令和3年度も引き続き「新型コロナウイルス感染症」が広がりを見せる状況でしたが、地域の福祉人材の育成を継続させるという強い使命感のもと、感染症対策を徹底するとともにオンデマンド配信などの技術を活用し、法人主催で強度行動障害支援者養成研修、介護職員初任者研修及び介護職員実務者研修を開催しました。

強度行動障害支援者養成基礎研修（基礎研修）

・受講者134名 ・修了者134名

介護福祉士



働きながらの試験勉強を支援するために、介護福祉士受験対策講座も開講しています。

ガイドヘルパー

- 知的・精神障害者移動支援従業者（ガイドヘルパー）養成研修課程
- 京都光華女子大学………受講者29名、修了者27名
 - 大谷大学………受講者40名、修了者34名
 - 大阪保育福祉専門学校…受講者44名、修了者39名

実習受け入れ

社会福祉士養成実習や保育教諭等養成実習は、新型コロナウイルス感染症の影響から、大学での代替実習となるケースが増加しました。実習教育の目的は、大学での「学び」を社会福祉の現場での「実践」から思考する省察的实践教育へと展開させることです。そのためには、社会福祉現場での実践が不可欠です。そこで、法人では、宿泊実習を基本としながら、定期的なPCR検査等を実施するなど、徹底した感染症対策のもと可能な限り学生を受入、実習教育の目的を達成できる環境を整えました。

社会福祉士相談援助実習（旧カリキュラム）	京都女子大学（4名）、大谷大学（3名）、同志社大学（1名）、佛教大学（1名）、大阪歯科大学（1名）
社会福祉士実習Ⅰ（新カリキュラム）	同志社大学（5名）
ソーシャルワーク実習	龍谷大学短期大学部（1名）
保育施設実習	京都光華女子大学（5名）、大谷大学（7名）、華頂大学（1名）、京都文教短期大学（4名）、龍谷大学短期大学部（1名）、京都保育福祉専門学院（10名）、大阪保育福祉専門学校（2名）
現場実務研修	独立行政法人国立のぞみの園（6名）

多様なキャリアプランと研修制度

スーパーローテーション導入3年目を迎えて

令和2(2020)年4月から新しい人材育成の制度として、1年ごとに他部門(施設)へ移動する「スーパーローテーション制度」を導入しました。令和3年度末の対象者は、2年目職員3名、1年目職員4名で、着実に成長・発達をみせています。多様化する社会で個に着目して、職員一人ひとりの強みを活かす育成教育は、重要な視点と考えています。

	スーパーローテーション	標準ローテーション
対象者	総合職の中から新規採用時に指名する	総合職スーパーローテーション以外の職員全員
異動期間	採用から4年間1年ごとに異動する	原則として、同一部門2年以上
配属先	障害・高齢の入所施設	全部門が対象
5年目以降	全部門ありうるが、相談部門へ配属される可能性が比較的高い	全部門の可能性はある

スーパーローテーションを経験して

障害者支援施設 紡 西村志保美

毎年、利用者様の特性も施設機能も違う事業所で経験し、広くさまざまな支援を身に付けることができると実感しています。1年での異動は、利用者様ともう少し関わりたいかったという思いは残りますが、たくさんの利用者様と出会える喜びもあります。異動するたびに新鮮な気持ちで利用者様に向き合

い、支援の質を向上させたいと意欲的に取り組んでいます。

スーパーローテーションを通じて、複数の事業所で職員のつながりができることは、これからの大きな財産でもあります。私が異動することは事業所にも刺激を与え、お互いの良い所を取り入れる好循環が生まれるように感じています。

来年でスーパーローテーションの期間は終了しますが、4年間の経験をつなげることを意識して、さらに精進していきたいです。



正規職員制度は働き方に応じて3区分に

本人の希望やライフスタイルの多様化に合わせて、働き方を選択できるように、正職員制度は3つの区分を設けています。

総合職

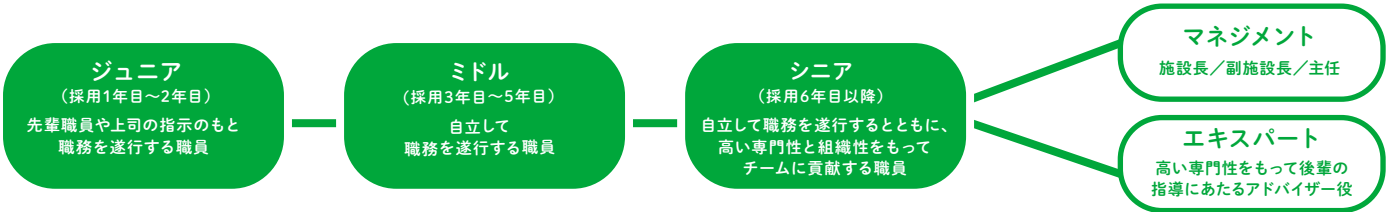
生活支援員、介護職員、相談員などさまざまな職種を経験することで多彩な知見を深め、ステップアップを図ります。法人内でのさまざまなキャリアアップが可能で、「単線型」俸給表から、同じく国家公務員俸給表をベースとしつつも「複線型」俸給表を採用しています。

一般職

勤務する地域(城陽エリア・醍醐エリア)を限定して、ワークライフバランスを考えながら、時間にゆとりを持つ働き方です。その上で、専門職としての知識やスキルを深めていくことができるよう図ります。4週6休以外に、週休2日または3日も選択可能です。

時間限定職

勤務時間と勤務地を限定できる正規職員です。育児や介護など生活と両立しながら働きたい方に、勤務時間は週30時間、週休2日または3日を選択可能です。また、夜勤の有無も選択できます。



きょうと福祉人材育成上位認証を取得しています

「きょうと福祉人材育成認証制度」は、人材の育成・定着に取り組む福祉事業所を京都府が認証し、学生などに福祉職場の情報を提供することを目的としています。平成25(2013)年度に創設され、当法人を含め、5つの事業所が初の認証事業者に選ばれました。現在、285の事業所が認証されています。平成29(2017)年には、さらに上位の取り組みを実践し、福祉業界を牽引する事業所が認定される「上位認証」を取得しました。



職員体制を見直し、夜間帯の支援を強化

これまでフロア間職員を定期的に配置転換する想定で進めていましたが、利用者様への影響が大きいことから、夜間帯の職員体制を見直す計画へ修正しました。夜間帯の利用者様支援を強化することを目的に、業務夜勤を廃止し、夜勤体制を職員2名+業務夜勤1名から、職員3名へと変更しました。結果、体制変更案を試行実施しつつ、段階的に整理を行うことができました。

堆肥を活用した地域活動

堆肥を使用し、地域に貢献できることを考えました。堆肥の元となる刈り草の安定的な確保として、魁の除草作業や、五里五里の丘などから提供していただいています。新型コロナウイルス感染症の影響により、実施はできませんでしたが、地域の小学校などに堆肥を使用した合同企画を提案しました。



接遇の評価方法を改め、丁寧な対応の定着へ

職員接遇面について、自己チェックを毎月、他者チェックは半期ごとに実施しました。自己・他者チェックの乖離を明確にし、改善を図りました。前期と後期での他者チェックを比較すると、後期の方が良い結果となりました。



次年度に向けて

利用者様の高齢化とともに重度化しているため、さらなる支援の充実が必要となります。次年度は、日中における活動場面や職員支援体制を見直し、整理することで、利用者様への支援の充実を図っていきます。また地域貢献活動においては、今年度新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった堆肥を使用した合同企画の実施を目標としつつ、さまざまなアプローチで地域との繋がりを強化していきます。

事業内容：生活介護60名、施設入所60名、短期入所4名		
利用者層：重度知的障害者	所在地：城陽市富野狼谷(本園)	施設長：吉岡 弘樹



第三者評価の受診を生かしたサービス向上の取り組み

昨年度の第三者評価で受けた改善案をもとに、サービス向上委員会が中心となって、第三者評価項目の自己評価を行うとともに、全般的なサービス向上に取り組みました。

12月に実施された法人内の実地調査での評価結果は、対象58項目中、A評価57項目、B評価1項目でした。

業務内容の見直しを行い、日中活動の充実

職員の業務内容のうち、間接業務の整理を重点的にを行い、利用者様に直接支援ができる時間の増加を図りました。さらに、日中活動時間の増加を目指し、日課の見直しを行いました。



次年度に向けて

- ・日中活動のさらなる充実を目指して、幅広い利用者様に参加いただけるよう活動内容の見直しを行います。
- ・利用者様の生活満足度向上のため、施設内居室の環境整理を行います。

事業内容：生活介護35名、施設入所35名、短期入所2名		
利用者層：知的障害のある高齢者	所在地：城陽市富野狼谷（本園）	施設長：松井 一真

個室化改修・増築棟新設により、住環境が飛躍的に向上

改修工事・増築棟整備に伴い、会議や委員会にて、利用者様の居室の引っ越しの日程調整や食事席の変更など、適宜話し合いを持ちながら、最善の方法を模索し続けました。

改修工事の結果、バリアフリー化が進み安全性が高まったほか、個室化によるプライバシーの確保や感染対策が強化されるなど、住環境が飛躍的に向上しました。



新記録システムを積極的に活用し、業務改善を促進

記録システムの「福祉見聞録」を活用することで、利用者情報や施設・職員スケジュールなどを1つに統合管理できるようになり、それらを共有することで仕事の効率化を図るようにしました。

外部受診や事故報告書などについては、ケース記録との連動により作成することで、業務の省力化にも繋がりました。

第三者評価の評価が全項目、A評価

令和3年12月に第三者評価を受診した結果、全項目でAという高い評価を得ることができ、職員の自信やモチベーションアップに繋がりました。さらに良くするための助言を活かし、引き続き改善活動に取り組んでいきます。

次年度に向けて

令和3年度は個室化改修・増築棟新設により、利用者様の高齢化・重度化を見据えた環境整備が図ることができた1年となりました。新たなハード面を活かすべく、ソフト面の充実がより一層求められます。ICTの積極的活用により、業務の効率化やスムーズな情報連携、データ活用などに取り組み、さらなるサービスの質向上を目指すとともに、働きやすい職場環境づくりへ繋がっていききたいと思います。

事業内容：生活介護37名、施設入所36名、短期入所1名		
利用者層：知的障害のある高齢者	所在地：城陽市富野狼谷（本園）	施設長：村地 正浩

SDGsを実践した循環型ファームの取り組み

障害支援施設「魁」ではぶちぼんとファームを障害者支援施設「凜」と一体運営を行い、コンポスト活動を通じて共生社会・地域貢献活動に努めました。

地域の生ごみを回収し、堆肥作りを行い、野菜の栽培・収穫・販売を通じて「循環型ファーム」を実践しました。

今後、さらに生ゴミ・生産性・社会参加を高めていけるように継続的な取り組みを目指します。



ファームイベントを開催

職員間で、「コロナ禍の状況でもできることがある」と前向きに検討を重ね、感染予防（密回避・人数制限、検温、手指消毒など）に努めながら農業体験、収穫イベントを開催しました。また、地域の方が気軽にエコ活動に参加できる仕組み作りの一つとして、エコ講座を企画・開催し、コンポスト活動を発信することに力を注ぎました。



エコ講座にて、コンポスト活動（残飯をコンテナに入れ発酵させる作業）に地域の方が参加されている様子

次年度に向けて

法人内の他施設との連携をより一層深め、新たな就労支援の形として、多様なニーズに即応した働く場の提供を目指します。また、産・学・官との連携を通じた事業、「KOUFUKU連携事業」の取り組みを進めます。

事業内容：生活介護54名、就労継続A型11名、就労継続B型15名、施設入所60名、短期入所1名	
利用者層：就労を希望する障害者	所在地：城陽市富野狼谷（本園）
施設長：下前 拓也	

利用者様の権利擁護を推進するため虐待防止委員会の設置

令和3年度報酬改定において「障害者虐待防止の更なる推進」として、運営基準に虐待防止委員会の設置などについて盛り込まれました。令和3年度は努力義務となっていましたが、いち早く委員会の設置を行い、施設内にある権利侵害の芽に当たる事柄の把握や啓発活動に取り組みました。



アセスメントに基づく支援の整理

アセスメントのツールとしてPEP-3自閉症・発達障害児教育診断検査を活用し、検査結果に加えて日常の行動観察やデータ収集に基づく支援を組み立てることができました。一連の取り組みを取りまとめ「TEACCHプログラム研究会第15回実践研究大会」で実践報告を行うことができました。

標準的な支援の実施と支援を地域に広めていくための取り組みは継続して実施していきたいと考えます。



次年度に向けて

権利擁護に関する委員会の活動を継続実施し、利用者様の日々の暮らしに関する支援のあり方を振り返るとともに不適切な可能性のある支援を見直します。利用者様一人ひとりの生活環境が快適な状態であることを確認し、より生活実態に見合った暮らしの場を検討します。

事業内容：生活介護35名、施設入所35名、短期入所2名	
利用者層：重度知的障害者	所在地：城陽市観音堂甲畑
施設長：西田 武志（[知的障害者デイサービスセンターあつぷ]センター長 兼務）	



夜勤職員を2名体制に強化しました

利用者様の重度化・高齢化に伴い、マニュアルや日課を変更しました。業務夜勤を廃止し、夜間職員2名体制にすることで、より支援を充実させ、夜間緊急時に備えることができました。



新たな作業の導入やネット販売に取り組む

利用者様の日中作業として委託作業班では、これまで下請け作業を中心に、自主製品であるハーバリウムの作成にも取り組んできました。今年度から新たな作業として昆虫を飼育する班を導入し、利用者様が作業できる工程を増やすとともに作業内容の充実を図りました。さらにネット販売を開始し、この取り組みを地域に知っていただけるよう働きかけました。また、飼育したカブトムシを通じて近隣の保育園とも交流を深めることができました。



次年度に向けて

凜は、水害ハザードマップで浸水想定区域に入っているため、近年増加している水害に備えて法人内の大規模災害委員会と連携し、BCPマニュアルのブラッシュアップと水害時想定避難訓練を実施します。

事業内容：生活介護49名、施設入所40名、短期入所2名		
利用者層：重度知的障害者	所在地：城陽市富野東田部	施設長：小関 徹史

オンデマンドと対面を組み合わせた強度行動障害支援者養成研修に参画

平成28年より強度行動障害支援者養成研修を法人主催により毎年開催してきましたが、新型コロナウイルスの影響により、令和2年度は中止を余儀なくされました。

令和3年度は、新カリキュラムに対応した内容に変更し、オンデマンドと対面の組み合わせによる、新たな形式での実施を試みました。法人内外を問わず、行動障害のある人に対する標準的な支援方法の普及に、わずかにでも寄与することができればと考えています。



感染症対策の強化に取り組みました

長引くコロナ禍にあって、利用者様の健康と安全を守ることが、日々の営みに寄り添う私たち支援者にとって、何よりも大切な使命であるということを改めて強く感じる一年でした。

職員の対応力強化のため、宇治徳洲会病院から江口看護師長（感染制御実践看護師）を講師に招き、感染対策研修を実施しました。また、感染症発生時のシミュレーション訓練に取り組み、衛生資材の使い方やゾーニングを確認しました。



次年度に向けて

引き続き、新型コロナウイルスの感染動向に注視し、適切な感染対策を講じていきます。また、令和3年度報酬改定における基準省令の改正に伴い、虐待の防止などのための責任者及び委員会の設置や研修の実施が令和4年4月から義務化されるため、その対応についても抜かりなく行ってまいります。

事業内容：生活介護42名、施設入所42名、短期入所3名	
利用者層：重度知的障害者	所在地：京都市伏見区日野（醍醐）
施設長：奥村 一貴（障害事業局長＜醍醐＞＜島本＞兼務）	



ICTを活用し、近隣小学校との交流事業を継続

コロナ禍2年目の中、例年継続していた「近隣小学校の児童の皆さんとの交流を続けたい」という想いを形にすべくビデオ・WEB会議アプリを使用し交流会を実施しました。小学校の授業の時間で、輝の様子をライブで見ていただき、職員と意見交換をしました。年度末には、グループごとに障害について調べてまとめた内容をオンラインにて発表していただきました。福祉教育を通じて、障害のある方への理解がさらに進むことへの期待と我々社会福祉法人で働く職員の使命を改めて感じました。



さらなる質の向上を目指した改善活動の推進

前回の第三者評価受診で得た気づきを改善活動として落とし込み、特に整容支援の取り組みの強化・事故の減少に向けた取り組み・利用者様自治会の支援を行いました。サービス検討委員会が中心となり、支援の仕組みの見直しやマニュアルや手順書を含めたエビデンスとなる資料の見直し、作成をしました。



次年度に向けて

第三者評価を受診し、この3年の実績を確認するとともに、さらなる高みを目指して改善活動を続けていきます。また、利用者様の健康管理に繋がる機能低下予防の取り組みや日中活動の在り方を見直し、利用者様にとってより良い日常を支援できるよう施設運営の強化をしてまいります。

事業内容:生活介護58名、施設入所58名、短期入所7名、児童日中一時支援事業所ちゅりー	
利用者層:知的障害のある高齢者、知的障害児	所在地:京都市伏見区日野(醍醐)
施設長:山口 嘉信	

この先も安心して暮らしていただくため支援区分と障害年金を見直しました

利用者様の生活の中でご本人の状況、状態にあった暮らしをしていただくために、支援区分の見直しと障害年金の見直しを行いました。その結果、支援区分は2名、障害年金など級は3名の方の見直しを行うことができました。今後も利用者様の生活が安定できるように、一人ひとりの状況を把握していきます。

コロナ禍の今こそ、地域との交流を求めて

コロナ禍で外に出る機会が減り、地域の方との関わりも少なくなっています。その中で私たちができることとして、近くの「荒見神社」へ草抜きのお手伝いをしました。今年度の実施回数は少ないですが、次年度は月に一度交流を持ちたいと考えています。



身だしなみ支援を実施

グループホームは地域の中で生活をしているため、利用者様の日々の身だしなみに気を付けています。特に季節の変わり目は服装選びに悩まれることが多く、目安として季節に応じた服装の年間スケジュールや個別に気を付けることなどを記入した表を作成しました。現在は、これらに沿って統一した支援を行っています。併せて、利用者様向けのルールブックも作成しました。



次年度に向けて

高齢化・重度化・若年層それぞれに沿った支援の実施の中で、職員一人ひとりが支援技術の向上を目指します。また、コロナ禍ではありますが、グループホームとしての役割でもある地域との交流、外部との関係構築を重点的に取り組んで参ります。

事業内容：共同生活援助41名		
利用者層：知的障害者	所在地：城陽市内3ヶ所	室長：長野美香



訪問リハビリ事業への新規参入を行い、超強化型を維持

経営戦略を検討し、営業力を向上させることを目指して訪問リハビリ事業への新規参入に取り組みました。利用者様の募集や支援者の理解を得ること、訪問リハビリ参入とともに回転率の取得、在宅復帰率の維持など超強化型に求められる基準をクリアできるように努めました。また、開所以来リニューアルしていないパンフレットの作成に取り掛かり、次年度へ向けての取り組みも職員全体で検討しました。



第三者評価受診にて、全39項目A評価を獲得

昨年度、新型コロナウイルス感染症の影響により受診できなかった第三者評価を受診しました。結果、全39項目全てA評価でした。さらにより良いサービスを提供するために、助言内容を活かし、内容の精査、各職員・利用者様の意見も吸い上げ、サービスの質の向上を図っていきたいと考えています。

職員の個別育成計画の策定・面談実施により定着率がアップ

個別育成計画をもとに全職員の面談を実施しました。併せて職員のストレスケアを行いつつ、各受験資格保有者にはチャレンジすることを推奨し、意識やスキルの向上にも取り組みました。結果、介護福祉士3名、介護支援専門員2名が合格しました。次年度に向けて、さらなる支援機能の充実・強化を目標に体制整備をおこなっていくこと、機能分化や地域貢献事業の充実も進めていきます。



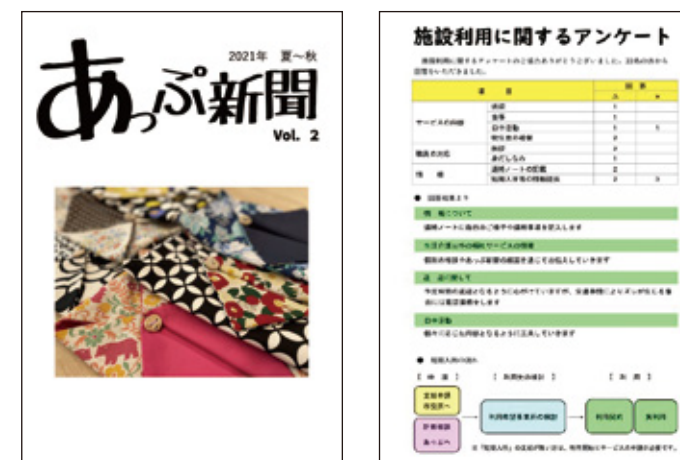
次年度に向けて

介護サービスの質の評価と科学的介護の推進を目指したLIFE(科学的介護情報システム)を活用し、サービスの質をより向上させ利用者様の満足度に繋げていきます。また、安定かつ報酬体系に沿った運営を継続していきます。

事業内容：介護老人保健施設100名、通所リハビリ30名		
利用者層：高齢者	所在地：城陽市長池五社ヶ谷	事業統括：大矢 真弓

広報誌の発行とアンケートの実施で利用者様とのコミュニケーションを活性化

施設から利用者様、ご家族への情報発信のツールとして広報誌「あっぷ新聞」を年間4回発行しました。広報誌では利用者様の日々の様子だけではなく、意向調査「施設利用に関するアンケート」の結果を公表するなど幅広い情報発信を行うことができました。



第三者評価の共有評価項目に基づく、サービスの自己評価と改善計画の策定

第三者評価の受診をきっかけに、計画的に施設全体でのサービスの自己評価を行いました。施設全体で自己評価に取り組むことで、より具体的な施設の課題の把握に繋がっています。第三者評価受診後には改善が必要な項目をリスト化し、改善計画の策定に着手しました。



次年度に向けて

日中活動を中心とするサービス内容を見直し、施設の持つ機能を整理していきます。施設の情報を関係機関に発信していくことで地域の中でより必要とされる事業所を目指します。利用者様の権利擁護に資する取り組みを実施し、より良いサービス提供に繋げていきたいと考えています。

事業内容：生活介護20名	
利用者層：知的障害者	所在地：城陽市観音堂甲畑
センター長：西田 武志〔障害者支援施設 翼〕施設長 兼務）	



利用者様と 街をきれいに

利用者様と一緒に、近鉄寺田駅ロータリーの清掃活動を定期的に行いました。「すまいる」「すいんぐ」と合同で取り組んでいるもので、少人数で短時間でしたが街をきれいにするため、一生懸命清掃活動を行いました。



ニーズに応じた個別プログラムを作成

「すいんぐ」ではレッドコードプログラムを中核とした機能訓練を提供しています。グループで取り組むレッドコードに加え、利用者様が自主的に個別に取り組めるプログラムを作成するため、介護老人保健施設 煌の理学療法士による個々の状態やニーズを聞き取り、個別プログラム作成に活かしました。現在は、利用者様個々のニーズである社会復帰や在宅生活維持などに向け、利用者様自身が主体的に取り組まれています。



ご意見やご要望の公表に向けて

満足度アンケートなどで伺った利用者様・家族様のご意見やご要望についての改善策などを、昨年は施設内に掲示していましたが、広報誌を年2回発行して定期的に公表することにしました。

次年度に向けて

「すまいる」は生活機能訓練と認知症ケア、「すいんぐ」は機能訓練とリハビリテーションの充実を図ります。また、自治会などと連携して地域向けの健康体操教室の開催に取り組めます。

事業内容: 身体障害者デイサービスセンターすいんぐ 生活介護20名 高齢者デイサービスセンターすまいる 通所介護25名	
利用者層: [すいんぐ] 身体障害者 [すまいる] 65歳以上の高齢者(第1号被保険者)、40歳以上65歳未満の特定疾病罹患患者(第2号被保険者)	
所在地: 城陽市枇杷庄	センター長: 山代 浩史(障害事業局長<城陽><宇治>兼務)

子どもたちの居場所づくりを目指して

1人では学習に取り組みづらい子どもたちに対し、一緒に学習を行う機会やさまざまなお話をする場の提供を目的に、毎月2回、職員や学生のボランティアと一緒に「学習スペースあんさんぶる」を定期開催しました。今後は、コロナ禍で中断している「子ども食堂」の再開も目指していきます。



相談支援専門員をを目指す職員をサポート

将来的に「相談支援専門員」を希望する職員を対象に、自己研鑽の機会として勉強会を企画しました。今年度は、相談支援の基礎理解を目的に、ソーシャルワークの基礎知識と、関連する諸制度の理解を深める3回連続の育成講座を開催しました。



地域の相談支援員を対象に研修を実施

京都府山城北圏域の令和3年度相談支援従事者初任者研修受講者を対象に、児童期・青年期・成人期のケース事例の考察や検討でケースワークを学ぶ、3回連続のフォローアップ研修を開催しました。

次年度に向けて

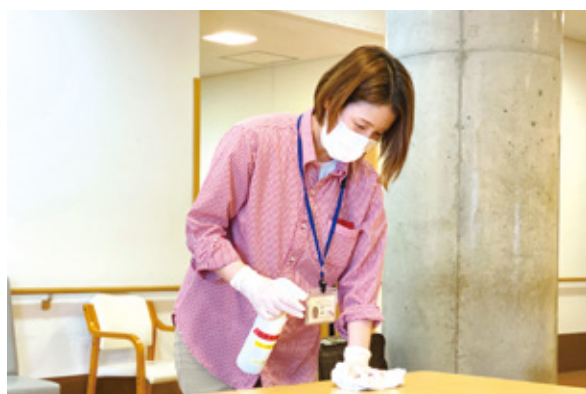
法人内外の相談支援専門員のレベルアップに向けた研修会の充実を図ります。また、障害児者家族の地域におけるネットワーク作りの活動に取り組めます。

事業内容: 障害児(者)地域療育支援センターういる、山城北圏域障害者総合相談支援センターういる、 障害者生活支援センターはーもにい、居宅介護支援事業所すまいる	
利用者層: [ういる] 障害児(者) [はーもにい] 障害者 [すまいる] 65歳以上の高齢者(第1号被保険者)、40歳以上65歳未満の特定疾病罹患患者(第2号被保険者)	
所在地: 城陽市枇杷庄	センター長: 山代 浩史(障害事業局長<城陽><宇治>兼務)



感染症対策の徹底による デイサービス環境整備の取り組み

利用者様が、清潔かつ安全な日中の環境整備を図ることを目的とし、長引くコロナ禍での通所にて感染する不安を軽減すべく、健康チェック・消毒・清掃・換気の徹底を行いました。また、京都市内の他施設での感染者情報が随時キャッチできる仕組みがあり、感染リスクがあった場合はすぐに状況確認し健康観察などの対応をしました。1日だけ消毒のための休業をしましたが、幸い、施設クラスターになることはありませんでした。



職員間での情報共有を強化し、より良い支援を提供する

デイサービスは、利用者様の送迎や日中活動中での職員間の情報共有が難しいため、朝の送迎前と夕方の送迎後の限られた時間で伝達を行っています。曜日によって利用者様が異なるため、円滑に個々の利用者様の支援について情報共有ができる仕組みづくりに試行錯誤しました。また、業務の役割を具体的に切り分け、より良い支援が提供できるよう取り組みました。今後も、より円滑な情報共有の仕組みを検討し、職員の支援の質を高める取り組みを進めていきます。



次年度に向けて

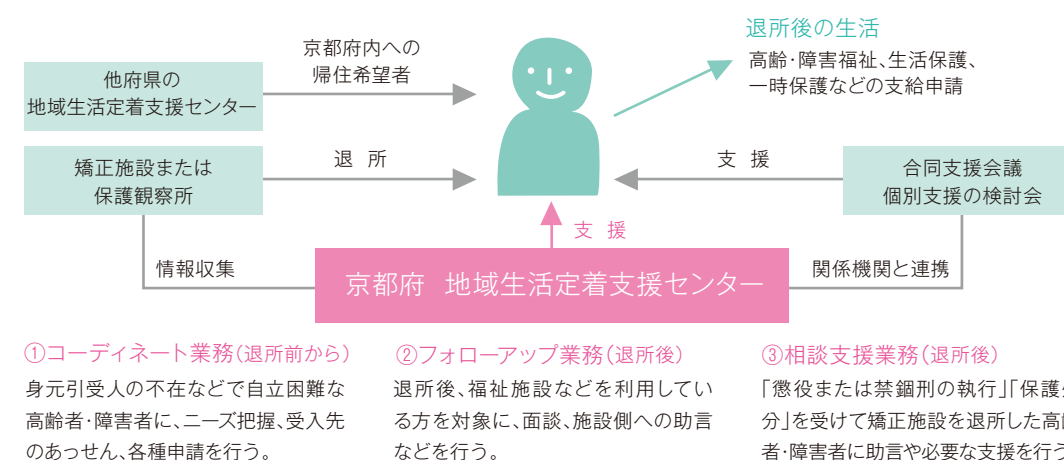
年度途中も新規利用が数件あるものの、利用者様が施設に入所されていくことが多いため、年々通所の利用者数が減少しています。また、他法人が運営するデイサービス事業は多数あるため、送迎エリアの見直しを行い、デイサービスセンターわこうのより多くの方に利用いただけるよう取り組みます。そして、コロナ禍での日中活動の見直しを行い、安全に楽しく過ごせるデイサービスを目指します。

事業内容：障害者デイサービスセンターわこう 生活介護35名		
利用者層：すべての障害者	所在地：京都市伏見区日野	センター長：日置 貞義

被疑者・被告人への「入口支援」の体制を整備しました

令和3年度より、罪に問われた高齢者及び障害者が被疑者・被告人になった段階(入口)において、福祉的支援を必要とする方に対し、検察庁・保護観察所などと共に関係機関と連携し釈放時に福祉サービスなどに橋渡しする業務が新たに追加されました。そのため、ふいっとでは京都地方検察庁、京都保護観察所、京都府、京都市更生支援相談員との意見交換会を実施し、入口支援における情報収集やふいっとの役割について説明などを行うことで、入口支援関係者との関係構築ができました。

〈京都府地域生活定着支援センターふいっとの支援の流れ〉



京都市委託の障害支援区分認定調査の遂行

令和3年度もコロナ感染症の影響があり、訪問調整に時間を要しましたが、前年の件数を上回る障害支援区分認定調査計1555件(京都市1501件、京都府下37件、他府県17件)の調査を実施することができました(前年1471件)。今年度よりオンライン調査も可能となり、入所系施設などで数件実施しましたが、対象者の全体像が見えにくいことがあり、調査の大半を訪問による調査にしました。

次年度に向けて

リーふは、引き続き障害支援区分認定調査の依頼遂行と、京都市東部地域障害者自立支援協議会の「相談支援部会」立ち上げに向けて他事業所との連携を図ります。ふいっとは、令和4年度から被疑者・被告人への支援(入口支援)において、弁護士連携をする体制整備事業が新たに追加されるため、これまでに構築した連携ネットワークのさらなる発展を目指し、地域共生社会の実現に向けて支援に取り組みます。

事業内容：障害児(者)相談支援センターリーふ、京都府地域生活定着支援センターふいっと	
利用者層：[リーふ]すべての障害者 [ふいっと]触法障害・高齢者	
所在地：京都市伏見区日野	センター長：日置 貞義



通所事業の新規利用者を促進するため、プロモーション動画を作製

センター島本は開設3年目を迎えました。島本町ふれあいセンター横にある施設であることから認知していただけるようになりましたが、どのような活動をしているのか、利用方法や雰囲気はどうかなどの声があったため、情報発信ツールとしてプロモーション動画を作製しました。事業所説明会、見学時に活用して、魅力あるセンター島本を発信できればと思います。

センター島本PR動画



地域とのつながりを目指し、法人内の小規模保育園るりの詩との連携

島本町内にあるるりの詩保育園と連携をとり、2歳児がパン工房見学を実施しました。園児は、きらきらした眼差しでパン工房の中を一生懸命、興味深く見学しており、翌日は保育園内で園児がパン工場ごっこをしていたとの報告を受けました。次年度はパン作り体験として、親子パン教室の企画を検討しています。



相談員の専門性の向上を目指して



コロナ禍によって外部研修への参加機会の減少を補うため、事業所内で学習会を企画しました。各相談員が図書を読み込み、プレゼン形式でアウトプットする相互学習の機会を作りました。当日は、相談員のみならず通所の職員も聴講者と参加する形で実施し、認知行動療法、強迫性障害、発達検査、ライフステージによって利用できるサービスなどについて、基礎的な知識を学びました。

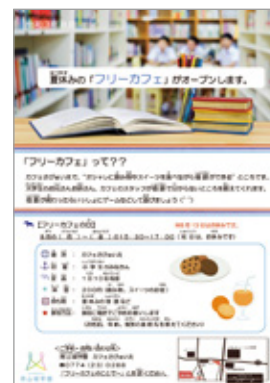
次年度に向けて

送迎対応エリアの拡大を目指し、より多くの方に利用していただけるよう努めてまいります。また、ソフト面において幅広い支援を行えるよう、職員のスキルアップを目指し、「感覚統合」について学ぶ機会を設定します。

事業内容：デイセンターふらっぶ25名、就労継続支援B型15名、ショートステイふらっぶ1日10名、障害児(者)相談支援センターういっしゅ	
利用者層：[ふらっぶ]すべての障害者 [ショートステイふらっぶ、ういっしゅ]障害児(者)	
所在地：大阪府三島郡島本町	センター長：赤塚 信隆

夏休み期間に小学生への学習支援を実施

小学生への学習支援として、カフェさびゆいえにて8月に計4日実施しました。ボランティアとして京都教育大学の学生に来ていただき、延べ13名の小学生が参加しました。次年度も引き続き実施していきたいと考えています。



就労移行支援事業からの企業就職と職場定着

就労移行支援事業さびゆいえは、令和3年度は14名の利用があり(前年度は11名)、うち5名が企業就職に繋がりました(前年度は2名)。また、障害者就業・生活支援センターはびねすと連携し、職場定着支援を実施しています。就職実績の積み上げに加え、さびゆいえの認知度を上げるべく、パンフレットの更新や広報チラシを行政・近隣などへ配布をしました。



就労及び生活支援の一体的な研修体系の構築

年間の研修計画を作成し、講師も職員間の持ち回りにすることで、現場に近い研修内容にすることに努めました。

6月	食中毒	11月	感染症対策
7月	就労支援	12月	権利擁護
8月	個人情報	1月	チームワーク
9月	安全運転	2月	個別支援計画
10月	自閉症支援	3月	自己覚知

次年度に向けて

令和4年1月から新たに就労継続支援事業A型が開始されました。活動内容や活動場所、職員の体制など、より多くの利用者様の受入れに向けた体制作りを進めていきます。相談部署との連携を密に行い、より地域のニーズに幅広く応えていける事業所になれるよう取り組みます。

事業内容：宇治小倉ホーム(共同生活援助)18名、短期入所2名、就労移行支援事業所さびゆいえ20名、障害者支援センターじゃすと(計画相談)	
利用者層：知的障害者	所在地：宇治市宇治蔭山
センター長：小林 稔([障害者就業・生活支援センターはびねす][若年者等就労支援拠点サザン京都]センター長 兼務)	



コロナ禍で伸び悩む 就職・実習支援件数

今年度、就職件数・現場実習件数が目標値の達成に至りませんでした。昨年度に引き続き、コロナ禍の影響があり企業実習の受け入れが非常に厳しい状況となっているため、引き続き地道に調整を進めていく必要があると考えています。

2021年度 はびねす 実績		
	目標値	2021年度実績
新規登録者	100名	128名
相談件数	6,500件	6,282件
就職件数	50件	38件
職場実習件数	35件	12件

障害者雇用に取り組む企業などと情報共有

今年度ははびねす主催で「みんなのMeeting」（年3回）と「在職者交流会」（年1回）を企画し、開催しました。特に「みんなのMeeting」では、障害者雇用に取り組んでおられる企業の方に、企業として抱えている悩みなどを話していただくことで、支援者と一緒に共有することができました。



相談業務のブラックボックス化防止と技術力の向上

法人の機能を活かし、同じ相談事業所であるサザン京都とはびねすの相談員の交流を図りました。相談援助技術をはじめ、さまざまな利用者様への見立ての強化やアセスメント力の向上を行い、制度の理解やグループワークやロールプレイなど、より実践的な研修を実施しました。また、両事業所の相談員が交流し、意見交換することで、職員の知識や相談援助技術の向上を図ることができました。

次年度に向けて

障害者の未雇用や雇用悩む企業、さらには雇用後に悩みを抱える企業への助言や悩みを共有できる場の創造を引き続き取り組んでいきます。相談援助技術の平準化を図るべく、次年度は、より実践的な研修を進めていくことで、相談者の自己実現に取り組んでいきます。

事業内容:相談支援	
利用者層:就労を希望する身体・知的・精神・発達障害者および難病疾患患者	所在地:宇治市宇治蔭山
センター長:小林 稔〔地域福祉支援センター宇治小倉〕[若年者等就労支援拠点サザン京都]センター長兼務)	

ハローワークとのさらなる連携で 相談者の就職を実現

目標数値（新規登録140名、就職84名）に対し、新規登録210名、就職149名とサザン京都開設以来、最も多くの方に利用していただきました。コロナ禍の影響は少なからずありますが、「どんな相談も断らない」をモットーにこれからも地域の困りごとに果敢に挑戦し続けてまいります。

2021年度 サザン京都 実績		
	目標値	2021年度実績
新規サポステ登録者	140名	210名
サポステ就職件数	84名	149名
相談件数	サポステ	3,500件
	就労準備	940件
	ひきこもり	1,370件
	アウトリーチ	120件
		177件

若者やひきこもり状態の相談者が集える 「夜カフェ」「ZOOMカフェ」が好評

サザン京都（地域若者サポートステーション、ひきこもり支援、生活困窮者など支援）の相談者に対し、自宅以外での他者交流や情報交換と就労意欲の向上を目的とした居場所カフェ「夜カフェ」とそのオンライン版として「ZOOMカフェ」を継続実施しました。

開始から3年目を迎え、実施内容をブラッシュアップし、季節を感じられる内容にしました。年末には法人が運営するカフェ店舗を活用し、非日常空間を演出しました。フリートークやミュージックライブなどを実施し、大いに盛り上がりました。また、ZOOMカフェではブレイクアウトルーム機能を活用し、参加者誰もが楽しめるテーマで楽しい時間をシェアしました。



通所型就労トレーニング『ゲンテン』で アウトドアプログラムを実施

サザン京都に週3日通所しながら、働く上で必要な生活リズムやコミュニケーション能力を高める中間的就労では、野外活動を通じて報連相やチームワークなどを学ぶアウトドアプログラム「ゲンテン・デイキャンプ」を実施しました。普段とは違う屋外での作業を通じて達成感や充足感が得られたと好評でした。

次年度に向けて

次年度も京都府若年者等就職・定着総合応援事業の受託実施し、ハローワークや教育、行政、医療機関などとの連携をさらに深め、職員の質の向上を目指しながら地域課題の解決と働くことで実感できる喜びを実現していきます。

事業内容：相談支援	
利用者層：若年無業者、就職氷河期世代、ひきこもり状態の方、生活困窮者など	所在地：城陽市寺田
センター長：小林 稔（〔地域福祉支援センター宇治小倉〕〔障害者就業・生活支援センターはびねす〕センター長 兼務）	



保育園



保育園

もりの詩保育園

家庭的な温もりのある保育を目指して運営しています。

かぜの詩・そらの詩・るりの詩 保育園

家庭的な温もりのある保育を目指して運営しています。

イベント企画で地域の子育て世帯を応援

地域の子育て支援事業として、同じ子育て中の方との交流や、子育てについての悩み相談の場として計画した「ほいくえんであそぼう!」の実施をしています。保育園での遊びを体験できるような、絵本の読み聞かせや感触遊び、ベビーマッサージなどを企画しました。その中でも給食の試食会は好評でした。管理栄養士に質問したり、味付けの工夫やレシピについて熱心に聞かれたりする方が多くおられました。



地域の高齢者の方との交流

子どもたちが地域の人々と交流を持ち、社会体験の場を広げ社会性を育てるために、地域の高齢者の方を対象に、保育園で朝食を食べる企画を実施しました。食後は、園児と遊んでいただき「子どもたちから元気もらいました」「にぎやかで楽しかったです」などの感想をいただきました。高齢者の方との交流に、園児もいつもとは違う雰囲気でごえたり、絵本を読んでもらったりして楽しそうな様子でした。今後も、交流が深められるようにしていきたいと思います。



次年度に向けて

さらなる共生共助の地域づくりに貢献するため、今年度の「ほいくえんであそぼう!」で集計したアンケートをもとに、園庭開放の実施やイベントの企画をします。また、民生委員さんとの話し合いの場を設け、地域の子育てのニーズを把握し、子育てサロンへのお手伝いなどにも参加し、地域から必要とされる保育園を目指します。

事業内容:もりの詩保育園60名	
利用者層:乳児・幼児	所在地:京都市中京区
統括園長:水野 正人	

地域の方に見守られながら、安心・安全に過ごすために

地域における保育園として、地域の皆さんとのふれあいや交流を図ることにより、子どもたちの安心・安全につなげています。

日々のお散歩のコースには、消防署や交番があり「いってきま〜す!」と挨拶を交わすことが日課になっています。また、勤労感謝の日には、日頃の感謝を込めて園児の制作したものをプレゼントしたり、近隣の銀行に園児の作品を展示していただいたり、地域の方に見守られながら、安全に過ごす仕組みづくりができています。



絵本の読み聞かせ会を地域のボランティアが実施

地域との交流により、地域ぐるみの子育て支援につなげています。

島本町にあるるりの詩保育園では、社会福祉協議会のボランティアの方に、毎月1回保育園で絵本の読み聞かせ会を実施していただいています。

子どもたちは、絵本を夢中で聞き入ったり、手遊びや季節の歌を歌ったりと楽しんでいます。クリスマスには、手品を披露していただき、目の前で繰り広げられる不思議な光景に釘付けでした。手品をするお手伝いを子どもたちが経験でき、とても良い機会となりました。



次年度に向けて

小規模保育園の特性を生かし、積極的に地域との交流を行い、子どもの健やかな成長に繋げていきます。引き続き、地域のさまざまな機関と連携し、子どもたちが地域の中で見守られながら育つ取り組みを保護者様や地域住民とともに実施できるよう事業展開していきます。

※はなの詩保育園は2022年3月をもって閉園しました。

事業内容：かぜの詩保育園12名、そらの詩保育園12名、るりの詩保育園19名	
利用者層：乳児	所在地：京都市中京区、下京区、大阪府三島郡島本町
統括園長：水野 正人	

187回

障害のある方を支援して
就職につながった人数

障害者就業・生活支援センターはびねす、
若年者等就労支援拠点サザン京都では、
就労へのステップアップをサポートしています。



141回

地域とのつながりを深める
イベントの回数

地域とのつながりを深めるため、
イベントを開催し、
福祉の理解を促進しています。



280人

見学やイベントを通じて
施設を訪れた人数

地域の皆様にとって福祉施設が
「身近な存在」になることを願って、
イベントや見学、
施設開放などに取り組んでいます。



303人

新卒エントリー数

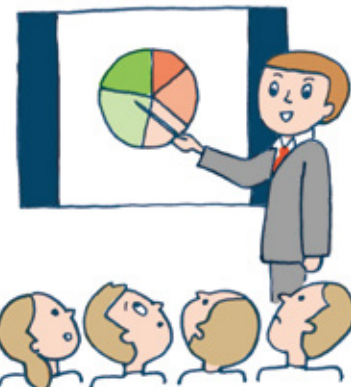
若者人口の減少傾向により、さまざまな企業が
人材確保に取り組む中、法人の採用計画において
新卒のエントリーから内定へつながる確率は
高くなってきています。



80回

学校や講演会場に
講師派遣した回数

「福祉の魅力」を
知っていただくために、
職員研修や大学の講義に
講師として職員を派遣して
います。



21,083人

カフェ（ぶちぼんとkitchen+farm、
ぷらんたん、さびゆいえ）を
利用したお客様の数

※緊急事態宣言中はお弁当販売数

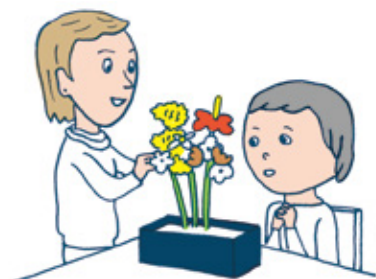
地域と障害のある方の
架け橋となることを願って、
敷地内にカフェを運営
しています。



200人

ボランティア活動を
してくださった人数

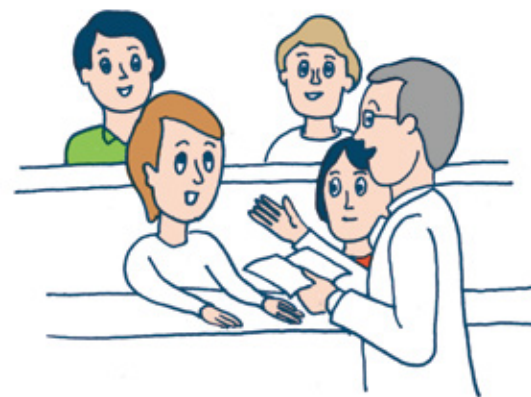
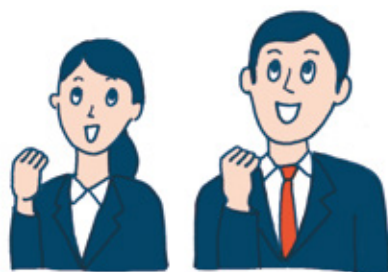
毎年多くのボランティアの方に
サポートいただいています。
これからも地域の皆様とともに
さまざまなことに取り組んでいきます。



113人

実習・インターンシップの
受け入れ人数

保育士や社会福祉士、
教員になるために必要な実習や
インターンシップを積極的に受け入れ、
福祉の現場の魅力を伝えています。



291回

法人内で開催した
職員研修の数

南山城学園では、
職員の質の向上を目指し、
積極的に職員向けの研修を
開催しています。

令和3年度(2021) 法人決算報告

単位:千円

貸借対照表	
流動資産	1,800,376
固定資産	7,527,694
資産合計	9,328,070
流動負債	597,474
固定負債	618,081
純資産の部	8,112,515
負債及び純資産合計	9,328,070

事業活動計算書	
【サービス活動増減の部】	
サービス活動収益計(1)	4,137,807
(運営収益)	4,128,583
(寄附金収益)	630
(その他収益)	8,594
サービス活動費用計(2)	3,983,208
(人件費)	2,474,625
(事務費・事業費)	1,302,191
(減価償却費)	206,773
(その他費用)	△ 381
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	154,599

【サービス活動外増減の部】	
サービス活動外収益計(4)	19,379
サービス活動外費用計(5)	16,662
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	2,717
経常増減差額(7)=(3)+(6)	157,316

【特別増減の部】	
特別収益計(8)	382,606
特別費用計(9)	159,478
特別増減差額(10)=(8)-(9)	223,128
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	380,444
前期繰越活動増減差額(12)	4,641,666
当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	5,022,110
積立金取崩額(14)	0
次期繰越活動増減差額(15)=(13)+(14)	5,022,110